

事後評価報告書
(日本-台湾研究交流)

1. 研究課題名：「新規な多電極を用いた海馬の神経回路に対する神経ステロイドの作用の解析」

2. 研究代表者名：

日本側： 順天堂大学大学院医学研究科 客員教授 川戸 佳

相手側： Academia Sinica, Division of Life Science, Institute of Molecular Biology, Professor
Chung Bon-chu

3. 総合評価： B

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

海馬スライスでの神経ステロイドの早い働きを解明し、プレグネロン補充療法の分子機構解明や改善に貢献した意義は高い。またプレグネロンの新しい受容体が発見されたことで、研究を相補的に展開できたことは評価できる。一方で、当初期待していた脳海馬ノックアウトマウスとコントロールとの間で LTP の差が想定外に見い出されなかったことに関しては、その解釈等、更なる検証が必要であったのではないだろうか。また、共著論文により重要な成果を発表しているものの、両国単独の研究成果が主となっているため、今後の連携による成果が望まれる。

(2) 交流活動の評価について

ステロイド作用の検証のために台湾側作製のノックアウトマウスを日本に移送して、日本側の多電極プローブによる緻密な海馬スライス実験を上手く組み合わせ実施した点は効果的な連携として高く評価したい。しかしながら、ワークショップあるいはシンポジウム等の開催の頻度が十分とは言えず、人的交流や情報交換等も含め、事業の趣旨に照らした交流活動が限定的であった点は残念であった。